

つまはくせん 爪白癬

水虫の原因である真菌（白癬菌）が爪に感染しておこります。痒みや痛みがないので、自覚しづらい病気です。我が国の爪白癬患者数は1100万人と推計され、加齢とともに罹患率が上がります。



爪が白く濁る



爪が変色する



爪がぶ厚くなる



爪がボロボロになる

これらの症状が見られたら、早めに皮膚科など専門医療機関を受診しましょう。

こんな人は注意

- 家族に白癬患者がいる
- 爪に亀裂や剥がれがある
- スポーツクラブや公衆浴場をよく利用する
- 過去に爪白癬になった経験がある
- 糖尿病や透析患者

予防法

フロアマットなどを定期的に洗濯をするようにします。白癬菌は温かく湿った環境を好むので、靴は1足を履き続けずに、何足かをローテーションで履くようにしましょう。同居家族に白癬患者がいる場合は、まず本人に治療してもらい、スリッパ、サンダル、足拭きマットを別にします。



治療法

以前は内服薬がメインでしたが、肝臓に負担をかけるなどの副作用がありました。近年では、外用薬が処方されるようになり、こちらは全身性副作用の心配はありません。

外用薬

- ・ エフィコナゾール
- ・ ルリコナゾール

内服薬

- ・ イトラコナゾール
- ・ テルビナフィン

その他

- ・ 抜爪



糖尿病の人は爪白癬になりやすい

糖尿病の人は足の血管が狭くなったり、神経機能が弱くなるので細菌や真菌に感染しやすく、足白癬（水虫）、爪白癬になりやすいと言われています。足白癬から混合感染、蜂窩織炎と進み壊疽、皮膚壊死などもあり得ます。基礎的な治療をしていれば、重症化することはありませんが、日頃からフットケアを行い、少しでも心配があれば皮膚科に相談をしましょう。